そして桃は流れる

なんじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
そして桃は流れる

【Ｎコード】
Ｎ２７３２Ａ

【作者名】
なんじ

【あらすじ】
コナン達の前に、大きな桃がドンブラコと流れてきました。さて、一体桃はどうなったのでしょうか？？

「あら、桃」
「・・・・・・」
「大きいわね、東洋の神秘って奴かしら？」
「ふっ、くだらねえ」
そうして、桃は瀬戸内海へと無事に流れていきました。

「ほら、蘭ちゃん！桃や！」
「うわあ、おっきい！手、届くかしら？」
「あ、ここの竿、借りよ。蘭ちゃん、しっかり手ぇ持っといてや」
「和葉ちゃん、気をつけて、もう少し。ああ、届かない！」
「もうちょっとやったのに」
「ホント、すごくおいしそうな桃だったのに、残念ね」
「ま、しかたないわ。
それに、もしうまく拾えたとしても、
私ら、刑事と探偵の娘やろ。
やっぱし、拾ったもんをそのまんま
気軽に自分達のもんにはできへんしね。」
「そう、そうよね、和葉ちゃん
でも、拾えたら、少し食費が浮くかな、と思ったんだけど」
「しっかり、主婦しとるんやな、蘭ちゃん」
そうして、桃は瀬戸内海へと無事に流れていきました。

「ちょ、ちょっと、高木君、桃よ、桃。
何であんな大きな桃が流れてるのよ」

「・・・もしかして、由美さんのいたずらじゃあないですか？」
「そう言えば、由美の奴、ヤケに今日の予定について
探りを入れてたわね」
「で、佐藤さん、どうします？桃」
「とりあえず、回収して、隠しカメラとか、盗聴器とか
怪しげな仕掛けがないかどうか調べてみましょう」
「あ、佐藤さん、僕が行きます」
「高木君！足元気をつけて！ああ！
・・・だ、大丈夫？高木君」
「は、はは・・・、何とか」
と言うわけで、心ならずも二人の熱いデートに
水を差して、桃は、瀬戸内海へと無事に流れていきました。

「おい、工藤、桃や」
「ああ、桃だな」
「お前、普通の桃やないで！」
「俺は、もう桃にはうんざりしてるんだよ」
「体は、俺より、若いくせに、エネルギーのないやっちゃなあ」
「おい、服部、俺に巻いてる腰紐は何だ？
まさか、俺を道具に使う気か！」
「よ～し、工藤、きっちり桃にしがみつくんやで。
よっしゃあ、かっ飛べや！工藤！！
・・・あ・・・、悪りい・・・
お～い、工藤～、元気かあ～」
「・・・ああ、
立ち木に叩きつけられた人間にしてはな。
服部、お前が最初から、狙ったとは思わんが、
未必の故意くらいはあったんじゃねえか？」
「何を言うとんのや、今のは事故や、完全な事故。

しっかし、よう飛んだなあ。
まさか、向こう岸まで届くとは思いもせんかったわ」
というわけで、
東西高校生探偵コンビの追求を逃れ
桃は、瀬戸内海へと無事に流れていきました。

「アニキ、桃！バカでかい桃が流れてきやすぜ！」
「また、桃か・・・」
「またって、アニキ！
そんじょそこらにあるような、桃じゃあ、ありませんぜ」
突然、数発の銃声が響き渡りました。
その音が消え去った後、
水面（みなも）には、かつて桃であった残骸が、
僅かばかり漂っているだけとなりました。
「行くぞ」
「・・・へい」
そうして、桃は、瀬戸内海の藻屑と消え去りましたとさ。

ちゃんちゃん。

（おわり）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2732a/

そして桃は流れる

2010年10月10日02時19分発行